

医療給付実態調査による 2008 年度の沖縄県における医療費の推計 —年齢階級別医療費の全国値との比較—

桑江なおみ・宮城智恵子・伊志嶺聡子*・仲村加代子*

Estimates of Medical Care Expenditures in Okinawa Prefecture in fiscal 2008 by Medical Care Benefits National Survey — Comparison of Medical Costs by Age Group between Okinawa Prefecture and Japan —

Naomi KUWAE, Chieko MIYAGI, Satoko ISHIMINE* and Kayoko NAKAMURA*

要旨：厚生労働省による 2008（平成 20）年度医療給付実態調査のうち、協会けんぽ、国保一般、国保退職、後期高齢の沖縄県分調査票の提供を受けて、1 人当たり診療費、受診率、1 人当たり日数等の診療諸率について、各制度の保険者別、年齢階級別に算出し、全国値との比較を行った。今回集計対象とした協会けんぽ、国保一般、国保退職、後期高齢の被保険者総数は、1,092,499 人（沖縄県の 2008 年 10 月推計人口の 79.4%に該当）、調剤、食事療養を含む医療費の総件数は 1,280 万件、総日数は 3,778 万日、総費用額は 2,893 億円であった。年齢階級別にみた 1 人当たり医療費については、協会けんぽがほぼ全国並み、国保と後期高齢については、沖縄県が全国を上回っていた。沖縄県では、とくに国保の 55-59 歳の 1 人当たり医療費が突出しており、50 歳代、60 歳代の 1 人当たり医療費が全国値よりかなり高かった。

Key words: 医療費、年齢階級別医療費、疾病別医療費、診療諸率

I はじめに

沖縄県では、平成 3 年度から老人医療費の動向分析、疾病構造の解析、老人医療事業報告等の効率化を行うため、「老人保健情報ネットワークシステム」を稼働、老人医療費実施状況報告（月報）および県内各市町村の共同電算処理による 5 月診療分老人医療費の疾病コード付き診療報酬明細（レセプト）の受け入れと集計分析を行ってきた。医療制度改革により老人医療は後期高齢者医療へと移行したが、1990～2007（平成 2～19）年度まで 18 年分の老人医療費に関するデータは、老人医療情報ネットワークシステムにより蓄積されている。医療制度改革後の 2008 年度以降については、老人だけでなく県民全体の受診や疾病等の医療費の動向について分析し、医療費適正化計画、健康づくり実施計画（健康おきなわ 2 1）の進捗状況を把握するための基礎資料を得ることを目的に、厚労省から医療給付実態調査の沖縄県分調査票（レセプト）の提供を受けて、医療費動向分析事業を実施している。本稿では、2008（平成 20）年度医療給付実態調査の沖縄県分調査票の集計結果から、年齢階級別医療費、1 人当たり医療費の全国値との比較について報告する。

II 方法

1. 集計対象の調査票情報の名称及び範囲

- (1) 名称：平成 20 年度医療費給付実態調査
- (2) 調査項目：12 項目

- ① 医療機関コード、② 保険者番号、③ 生年月日、④ 性別、⑤ 処理年月、⑥ 診療年月、⑦ 本人家族入外コード、⑧ 保険_診療実日数、⑨ 保険_決定点数、⑩ 保険_食事・生活回数、⑪ 保険_食事・生活決定基準額、⑫ 疾病コード

(3) 年次等：2008（平成 20）年度

2008 年 4 月～2009 年 3 月

(4) 地域：沖縄県

(5) 属性的範囲：調査項目②が県コード 47 を含むもの各制度での集計対象保険者を以下に示す。

- ① 国保一般：41 市町村、医師国保、② 国保退職：41 市町村、医師国保、③ 後期高齢者医療：41 市町村、④ 協会けんぽ：沖縄県支部

2. 集計の方法

集計分析は保険者ごとに行った。ただし、性別、年齢階級別、疾病別の状況については、協会けんぽ、国保（一般・退職）および後期高齢について市町村ごとに合算した。また、性別、年齢階級別被保険者数は、沖縄県福祉保健部において保険者別に実施した「被保険者数調べ」による数値を使用した。なお、比較に使用した年齢階級別諸率の全国値については、厚生労働省より公表された平成 20 年度医療給付実態調査報告より、協会けんぽ、国保計、後期高齢の各制度の件数、日数、費用額等を使用して算出した。

- (1) 制度別、年齢階級別医療費

* 沖縄県福祉保健部国民健康保険課

- (2) 性別, 年齢階級別医療費 (制度計)
- (3) 性別, 年齢階級別診療諸率 (制度計)
- ① 1人当たり医療費, ② 1件当たり医療費, ③ 1日当たり医療費, ④ 受診率, ⑤ 1人当たり日数, ⑥ 1件当たり日数
- (4) 年齢階級別, 疾病分類別診療費
- (5) 年齢階級別, 疾病別診療諸率
- ① 1件当たり診療費, ② 1日当たり診療費

上記(4), (5)の疾病別診療費については, 医療給付実態調査の調査項目のうち, 疾病コードについて記載のあるデータを使用した。

II 結果

1. 被保険者の状況

今回, 集計対象とした平成20年度の被保険者の合計は, 1,092,499人(男535,552人, 女556,947人)で, そのうち協会けんぽが470,091人, 国保(一般・退職)が513,405人, 後期高齢が109,004人となっており, 国保の被保険者がもっとも多かった。性別にみると, 国保では男が多くなっているが, 協会けんぽと後期高齢では女が多く, とくに後期高齢では男女差が大きかった。また, 総務省による2008(平成20)年10月1日推計人口に対する被保険者の割合(対人口比)をみると, 協会けんぽ34.2%, 国保37.3%, 後期高齢7.9%となっており, 今回集計対象としたこの3保険者で沖縄県の推計人口の79.4%(全国では68.4%)を占めていた(図1)。

年齢階級別にみると, 図2のとおり推計人口が多いのは, 沖縄県では30-39歳, 全国では55-59歳となっていた。被保険者数は, 沖縄県では全国に比べて30歳未満

が多く, 60-69歳がかなり少なかった。また, 今回集計対象とした3制度の被保険者数は, 沖縄県では50-54歳(74,806人)と30-34歳(74,803人), 35-39歳(74,097人)の順に多かったが, 全国では, 60-64歳, 65-69歳, 70-74歳の順であった(図2)。

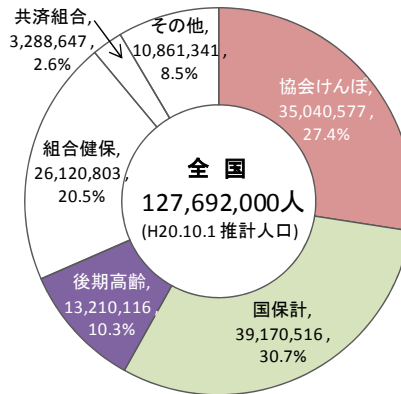
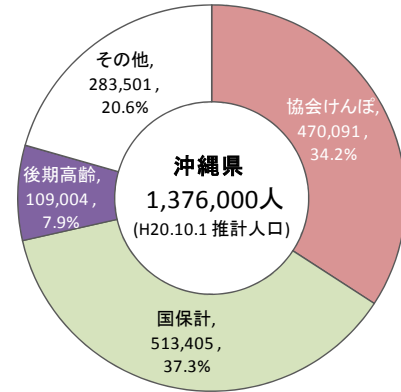


図1. 2008年度の沖縄県, 全国の推計人口と制度別被保険者数。沖縄県の組合健保および共済組合は集計対象としていないので, その他に含まれる。推計人口は総務省による2008年10月1日の人口。

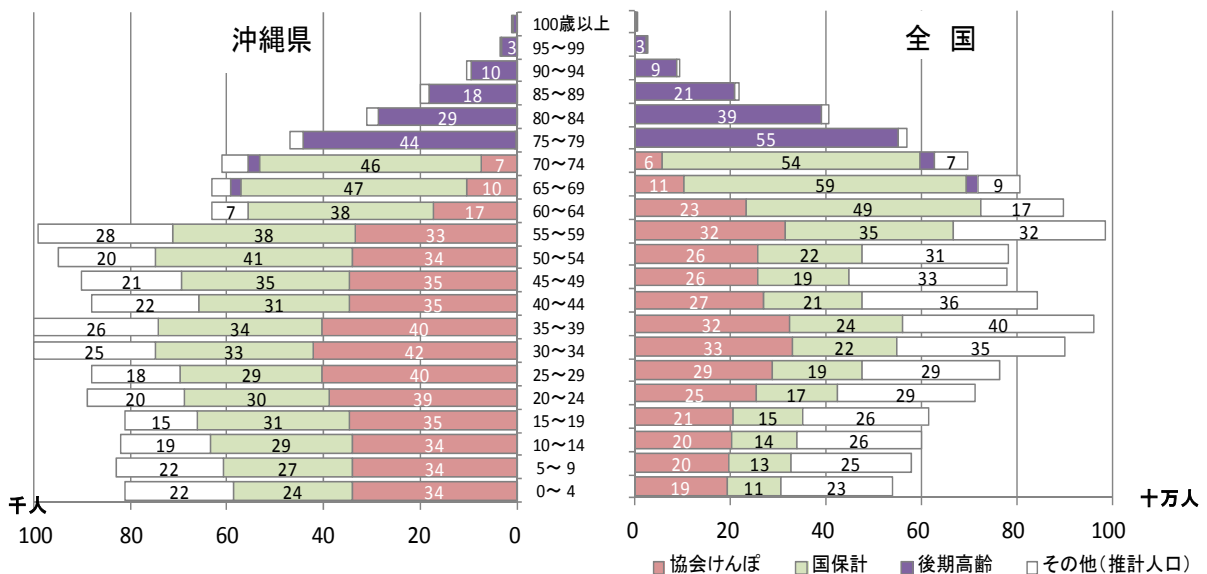


図2. 2008年度の年齢階級別推計人口と制度別被保険者数。推計人口は総務省による2008年10月1日の人口。

2. 年齢階級別医療費の状況

(1) 件数 (表1, 図3, 図4)

今回提供を受けた平成20年度医療給付実態調査における沖縄県の医療費(入院, 入院外, 歯科, 調剤, 食事療養)の件数は12,801,654件となっており, 制度別にみると, 協会けんぽ4,280,591件, 国保(一般および退職)5,553,916件, 後期高齢2,967,347件であった。診療種別では, 入院外が最も多く6,985,368件, 次いで調剤4,098,993件, 入院は306,604件であった。

年齢階級別にみると, 沖縄県では70-74歳(1,381,367件), 75-79歳(1,248,322件), 65-69歳(1,152,861件), 0-4歳(945,396件)の順, 全国では75-79歳, 70-74歳, 65-69歳, 80-84歳の順に多かった。被保険者の年齢構成を反映して, 沖縄県では15歳未満の件数が多く, とくに0-4歳は総件数の7.4%を占めており, 全国3.7%の2倍となっていた。また, 年齢階級別に診療種別件数の構成比を全国と比較すると, 沖縄県ではすべての年齢階級で入院(総数では沖縄県2.4%, 全国1.9%)が全国より高く, 入院外(総数では沖縄県54.6%, 全国56.3%)は全国より低かった。高齢になるほど入院の割合が増加しており, 100歳以上では沖縄県が14.4%, 全国が9.7%であった。

(2) 日数 (表1, 図3, 図4)

調剤, 食事療養回数を含めた総日数は37,780,973日であった。入院, 入院外, 歯科の診療日数は19,221,617日となっており, 制度別にみると, 協会けんぽ5,187,204日, 国保(一般および退職)8,285,496日, 後期高齢5,748,917日であった。

年齢階級別に診療日数をみると, 沖縄県では, 70-74歳(2,085,098日), 75-79歳(1,955,360日), 65-69歳(1,702,134日)の順, 全国では75-79歳, 70-74歳, 80-84歳の順に多かった。被保険者の年齢構成を反映して, 沖縄県では15歳未満の日数が多く, とくに0-4歳は診療日数の5.5%を占めており, 全国2.8%の約2倍となっていた(図4)。また, 年齢階級別に診療種別日数の構成比を全国と比較すると, 沖縄県ではすべての年齢階級で入院(総数では沖縄県27.2%, 全国20.5%)が全国より高く, 入院外(総数では沖縄県27.2%, 全国20.5%)は全国より低くなっていた。高齢になるほど入院の割合が増加して全国との格差が拡大し, 100歳以上では沖縄県が78.1%, 全国が60.6%であった。

(3) 費用額 (表1, 図3, 図4)

今回提供を受けた平成20年度医療給付実態調査の沖縄県の医療費の費用額(入院, 入院外, 歯科, 調剤, 食事療養)は, 2,893億円となっており, 制度別にみると,

協会けんぽが614億円, 国保(一般および退職)が1,226億円, 後期高齢が1,054億円であった。診療種別では, 入院1,340億円, 入院外916億円, 歯科167億円, 調剤378億円, 食事療養93億円であった。

年齢階級別にみると, 沖縄県では70-74歳(349億円), 75-79歳(344億円), 65-69歳(274億円)の順, 全国では75-75歳, 70-74歳, 80-84歳の順に多かった。被保険者の年齢構成を反映して, 沖縄県では15歳未満の医療費が多く, とくに0-4歳は112億円で総費用額の3.9%を占めており, 全国2.0%よりかなり高かった。

また, 年齢階級別に診療種別費用額の構成比を全国と比較すると, 沖縄県ではすべての年齢階級で入院(総数では沖縄県46.3%, 全国39.7%)が全国より高く, 入院外(総数では沖縄県31.7%, 全国35.3%)は全国より低かった。入院の割合は高齢になるほど増加しており, 100歳以上では沖縄県が80.0%, 全国が69.4%であった。

3. 年齢階級別1人当たり医療費の状況

(1) 診療種別にみた1人当たり医療費(制度計)

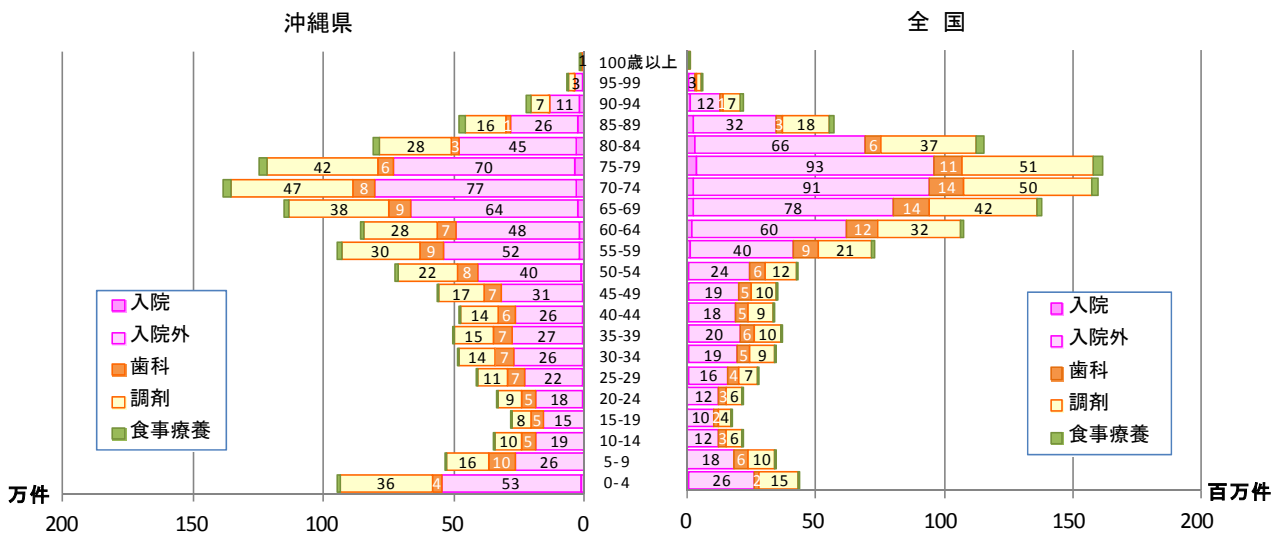
沖縄県における1人当たり医療費(総額)は, 264,823円となっており, 全国の292,723円をかなり下回っていたが, 協会けんぽ, 国保, 後期高齢を合算した年齢階級別医療費をみると, 5-9歳を除く全ての年齢階級で全国より高かった。とくに入院(221,702円, 全国238,801円)と食事療養(8,526円, 全国7,421円)は70歳以上の高齢層で格差が拡大していた。入院外(83,834円, 全国103,385円), 歯科(15,240円, 全国19,066円), 調剤(34,596円, 全国46,500円)は, 60歳以上で全国を下回っており, とくに75歳以上の後期高齢者の入院外医療費は全国よりかなり低かった。しかし, 60歳未満では全国並みか, 全国をやや上回っていた。(表2, 図5, 図7)。

なお, 沖縄県の1人当たり医療費について性別に比較すると, 全年齢階級の合計では, 男の260,840円より女の268,654円が高かったが, 年齢階級別にみると, 25-39歳の妊娠・分娩期を除くすべての年齢階級で, 男が女より高かった。とくに入院では, 高齢になるほど男女間の格差が拡大しており, 100歳以上では男が1,412,974円, 女1,041,776円であった(図6, 図8)。

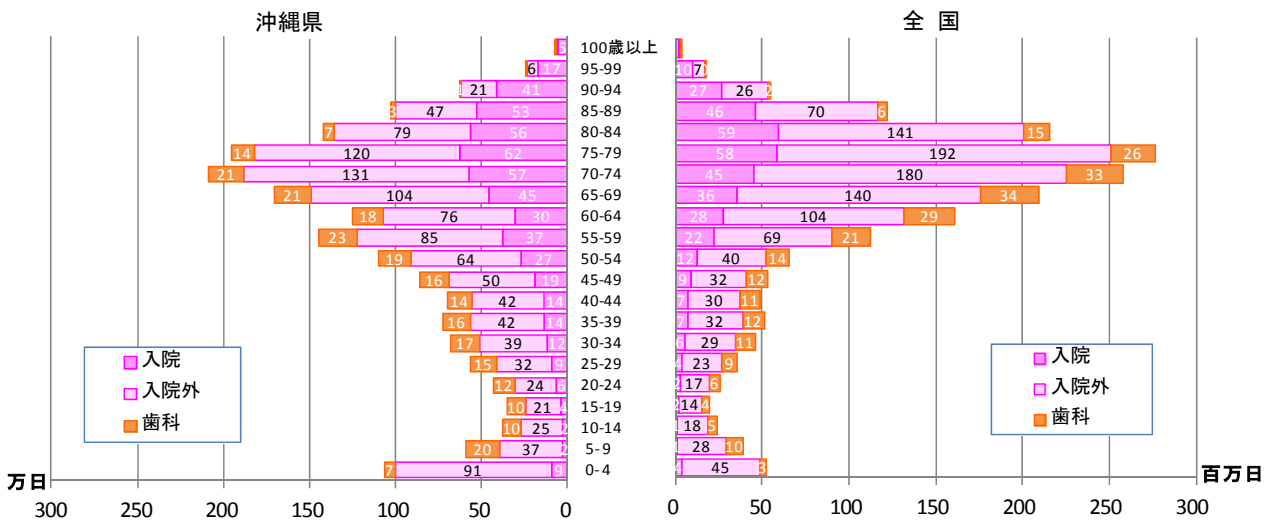
(2) 制度別にみた1人当たり医療費

制度別の年齢階級別1人当たり医療費について全国と比較すると, 図9のとおり, 協会けんぽについてはほぼ全国並み, 国保と後期高齢については沖縄県が全国を上回っていた。とくに国保では55-59歳の1人あたり医療費が突出しており, 50歳代, 60歳代の医療費が全国をかなり上回っていた。後期高齢では, 全ての年齢階級で全国

件数



日数



費用額

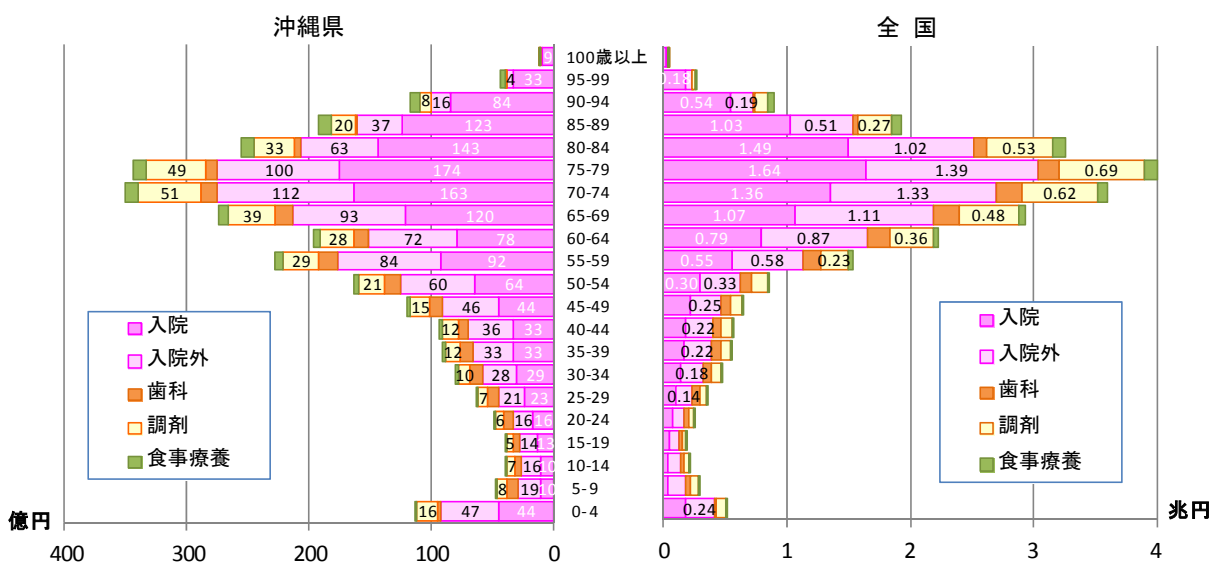
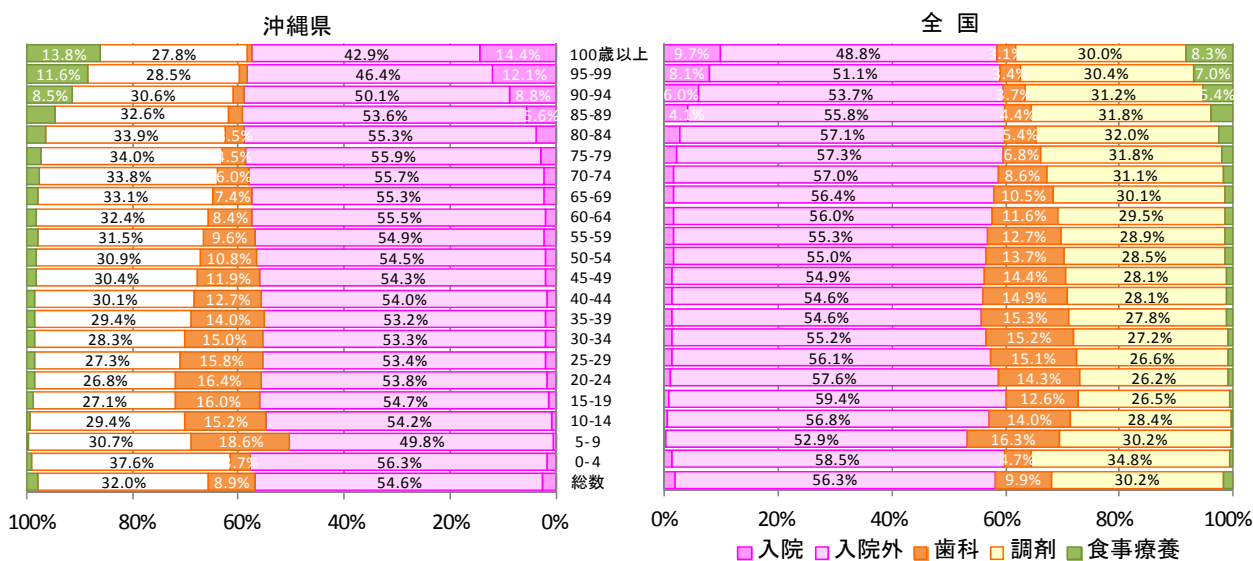
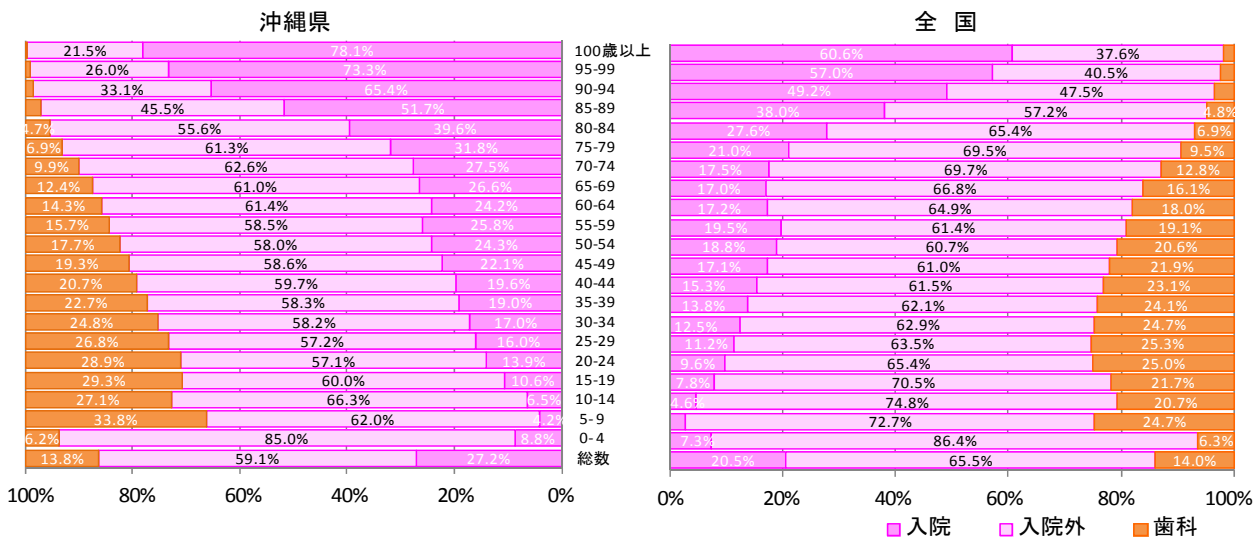


図3. 2008年度における沖縄県と全国の年齢階級別、診療種別医療費。協会けんぽ、国保、後期高齢の合算。

件数



日数



費用額

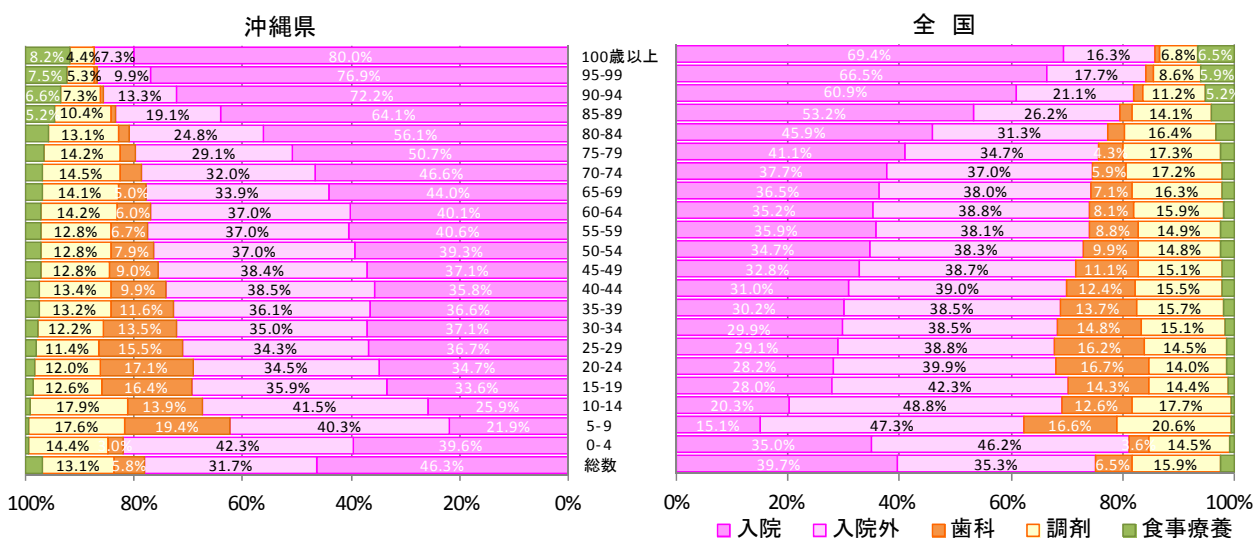


図4. 2008年度における沖縄県と全国の年齢階級別、診療種別医療費の構成比。協会けんぽ、国保、後期高齢の合算。

表2. 2008年度の沖縄県における年齢階級別1人当たり医療費(協会けんぽ, 国保, 後期高齢の計)

年齢階級	1人当たり医療費 (円)	医科診療			歯科診療			調剤	食事療養
		入院	入院外	医科診療計	入院	入院外	歯科診療計		
総数	264,823	122,627	83,834	206,461	281	14,960	15,240	34,596	8,526
0-4	190,416	75,352	80,629	155,981	370	5,334	5,704	27,495	1,236
5-9	75,583	16,589	30,467	47,056	178	14,505	14,683	13,333	511
10-14	59,676	15,455	24,758	40,214	81	8,197	8,278	10,686	498
15-19	57,875	19,428	20,790	40,218	270	9,232	9,503	7,317	837
20-24	68,459	23,768	23,592	47,360	258	11,418	11,676	8,236	1,187
25-29	89,170	32,745	30,595	63,340	254	13,577	13,831	10,131	1,868
30-34	105,842	39,265	37,069	76,334	152	14,114	14,266	12,950	2,292
35-39	121,809	44,630	43,995	88,625	119	13,997	14,116	16,057	3,010
40-44	140,570	50,265	54,097	104,362	163	13,754	13,917	18,770	3,521
45-49	172,189	63,897	66,065	129,962	78	15,369	15,447	22,044	4,736
50-54	217,932	85,703	80,659	166,362	229	17,063	17,292	27,979	6,298
55-59	319,620	129,680	118,289	247,969	340	20,965	21,305	41,046	9,301
60-64	350,942	140,732	129,791	270,523	337	20,559	20,896	49,864	9,659
65-69	462,829	203,704	156,823	360,527	518	22,577	23,095	65,257	13,951
70-74	626,498	291,817	200,319	492,136	536	24,119	24,655	90,757	18,950
75-79	776,390	393,759	225,581	619,340	542	20,260	20,802	109,900	26,348
80-84	892,810	501,248	221,206	722,454	957	15,666	16,623	116,624	37,109
85-89	1,052,178	674,704	201,477	876,182	189	11,122	11,311	109,639	55,046
90-94	1,219,432	880,061	162,710	1,042,771	309	7,259	7,568	88,881	80,212
95-99	1,317,577	1,013,627	130,758	1,144,385	285	4,567	4,852	69,247	99,094
100歳以上	1,355,315	1,083,968	98,514	1,182,482	0	2,584	2,584	59,099	111,150

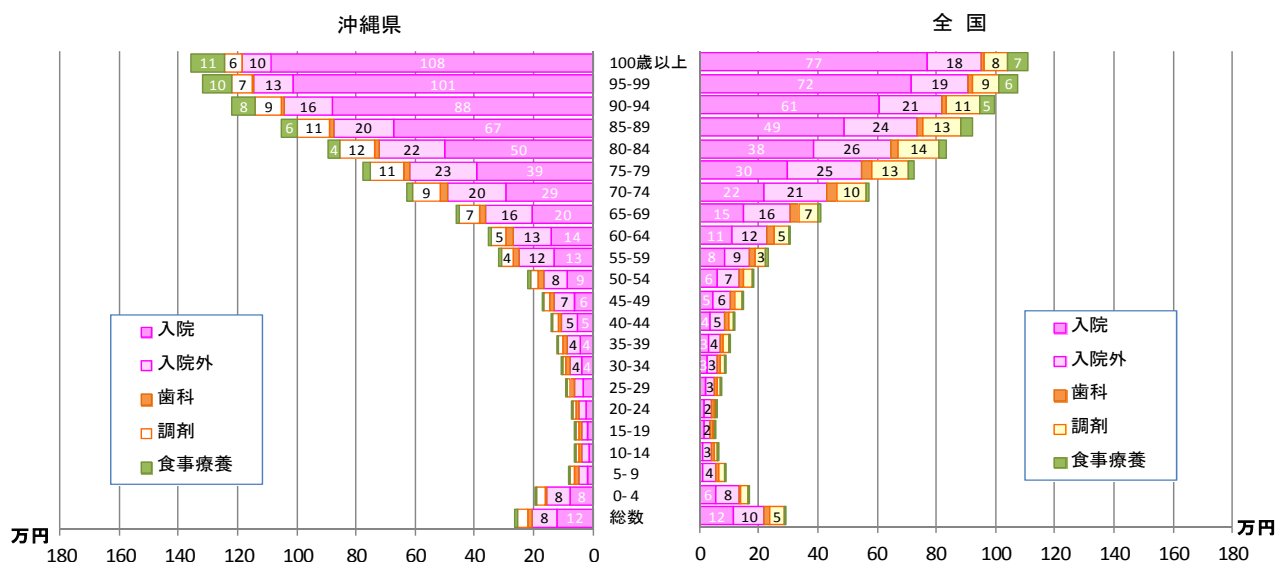


図5. 2008年度の沖縄県, 全国の年齢階級別, 診療種別1人当たり医療費. 協会けんぽ, 国保, 後期高齢の合算.

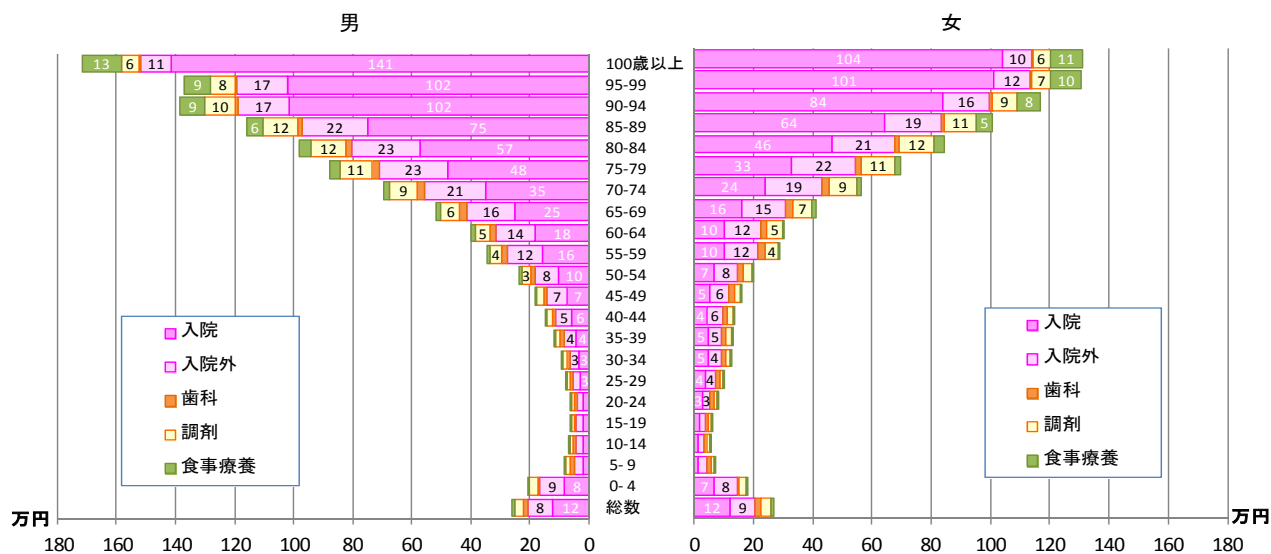


図6. 2008年度における沖縄県の性別, 年齢階級別, 診療種別1人当たり医療費. 協会けんぽ, 国保, 後期高齢の合算.

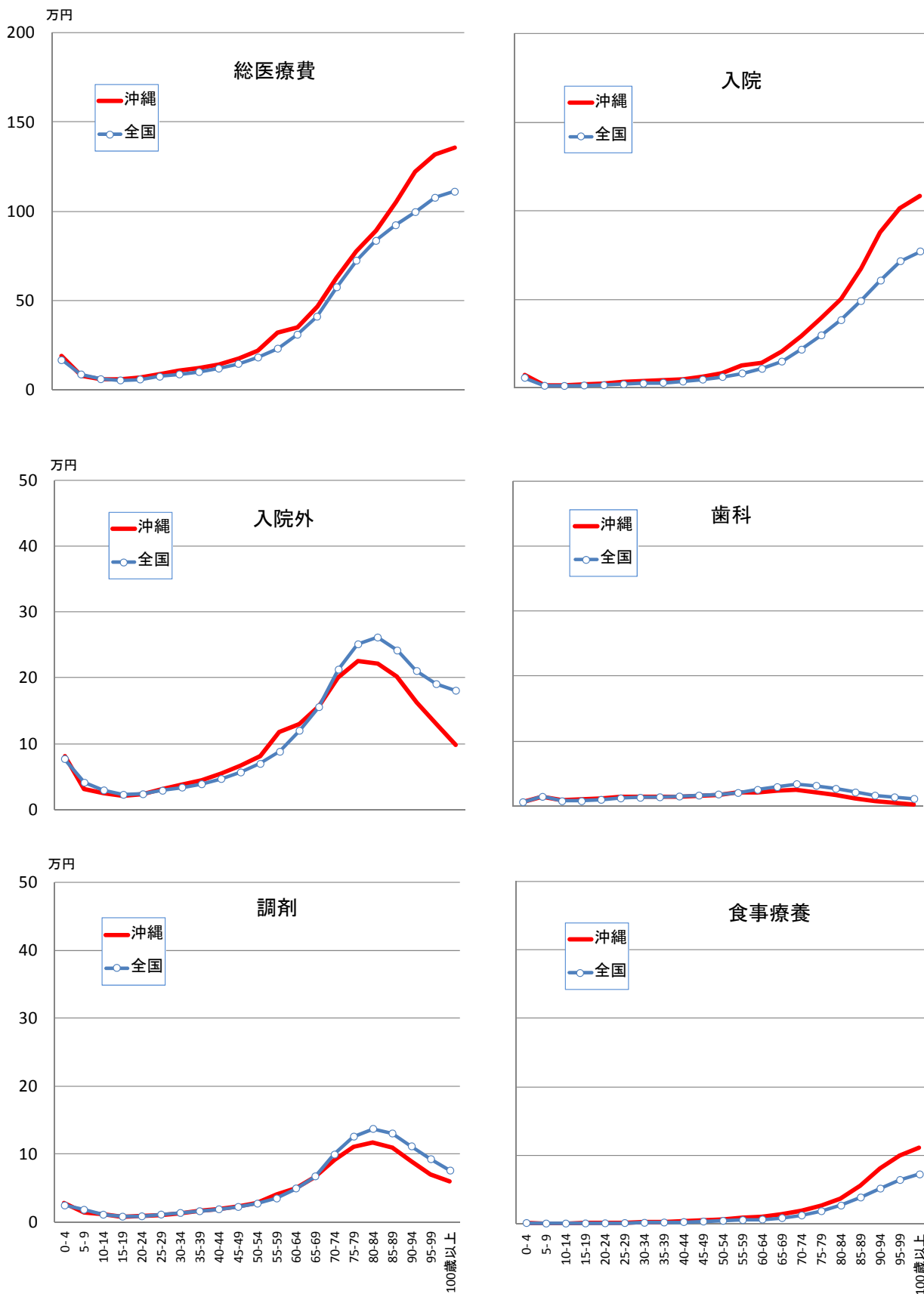


図7. 2008年度における沖縄県，全国の年齢階級別，診療種別1人当たり医療費。協会けんぽ，国保，後期高齢の合算。

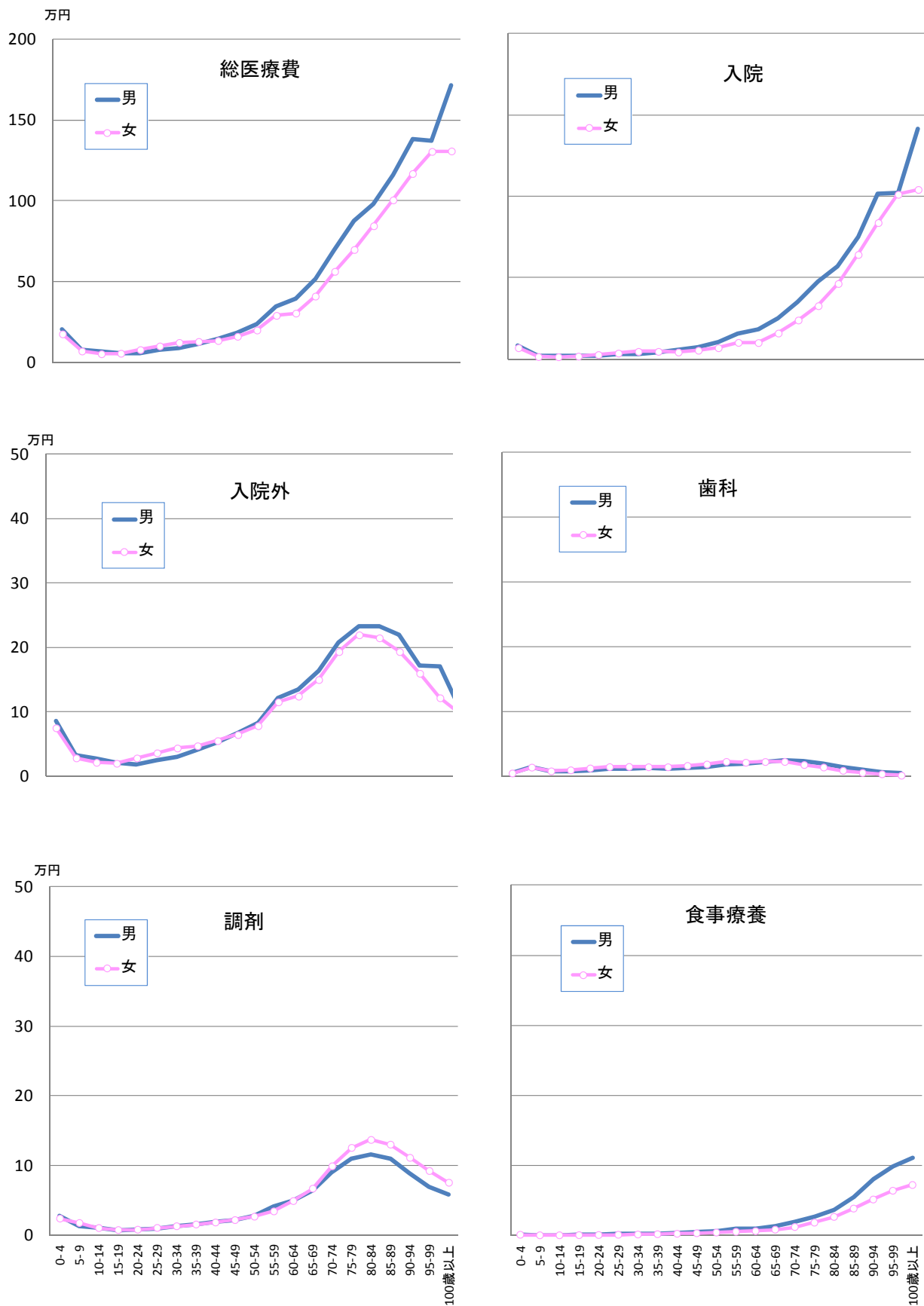


図8. 2008年度における沖縄県の性別、年齢階級別、診療種別1人当たり医療費。協会けんぽ、国保、後期高齢の合算。

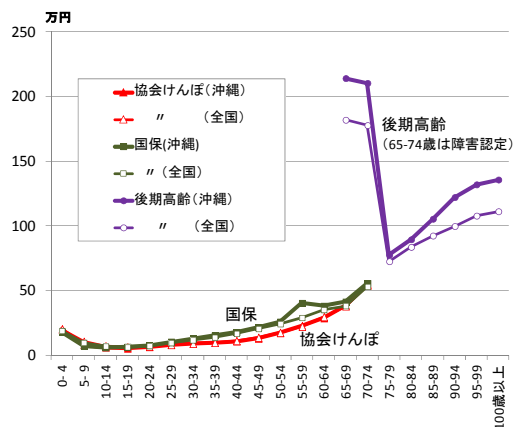


図9. 2008年度における沖縄県と全国の制度別、年齢階級別1人当たり医療費。

を上回っており、高齢になるほど格差が拡大していた。また、65-74歳の障害認定者についても全国より高かった(図9)。

IV 考察およびまとめ

今回、医療給付実態調査の沖縄県分調査票の提供を受けて行った集計分析は、医療制度改革後の沖縄県の医療費の動向を把握するための初の調査である。集計対象とした協会けんぽ、国保(一般・退職)、後期高齢の2008年度の被保険者総数は1,092,499人で推計人口の79.4%(全国では68.4%)を占めていることから、沖縄県の医療費の動向をほぼ把握できたと思われる。沖縄県の推計人口の年齢構成は、戦争の影響により65歳以上の老年人口比が低く、出生率の高さを反映して15歳未満の年少人口比が高かったが、被保険者の年齢構成も同様の傾向を示しており、とくに60-69歳で大きく減少していた。

2008年度の沖縄県の医療費は、12,801,654件(総件数)、19,221,617日(入院、入院外、歯科)、2,893億円(総費用額)であった。年齢階級別にみると、65歳以上の高齢者が全体に占める件数、日数、費用額は全国より低く、0-4歳では全国の約2倍となっていた。診療種別にみると、すべての年齢階級で入院と食事療養の構成比が高く、とくに入院費用額では高齢になるほど格差が拡大して100歳以上では入院が80%を占めていた(全国は69.4%)。入院外、歯科、調剤では、ほぼすべての年齢階級で全国より構成比が低く、高齢になるほど格差が拡大していた。1人当たり医療費では、5-9歳を除くすべての年齢階級で全国より高く、とくに入院では高齢になるほど格差が拡大して100歳以上では108万円(全国は77万円)であった。年齢階級別入院医療費の件数、日数、費用額の構成比が

すべての年齢階級で高くなっており、高齢になるほど格差が大きくなっている。にもかかわらず、沖縄県の1人当たり医療費(総額、全年齢)は264,823円であり、全国の292,723円をかなり下回っていた。老年人口比の低い被保険者の年齢構成の特異性が、1人当たり医療費、医療費の年齢階級別構成比に大きく関わっていることが示唆される。

また、本稿では診療諸率および疾病別診療諸率については詳述していないが、沖縄県の入院受診率(100人当たり診療件数)は65歳以上で全国より高く、高齢になるほど格差が拡大しているのが認められた。また、入院外受診率では70歳以上で全国を下回るものの70歳未満ではほぼ全国並みであり、50歳代では全国より高かった。なお、診療種別の診療単価は、1件当たり医療費、1日当たり医療費とも入院は概ね全国並み、入院外は60歳未満で全国よりやや高く、60歳以上で低くなっており、入院、入院外、歯科の平均では、ほぼすべての年齢階級で全国を上回っていた。

今後、医療費(総額)は、被保険者の高齢化に伴って全国でも増加すると思われるが、沖縄県では、出生率が高く人口の増加率が東京、埼玉等の首都圏に次いで高いこと、今後戦後生まれの老年人口が急激に増加すること、すべての年齢階級での入院医療費の構成比が高いことにより、医療費総額の増加率は、全国や他県に比べて高い状態が続くことは避けられないものと思われる。とくに、入院受診率が高く入院外受診率が低いことは、患者調査でも同様の傾向が示されており、県民の受療行動の特徴が年齢階級別1人当たり医療費(総額)高額化の要因となっている。医療費の増加を適正なものとするためには、老年期の入院から在宅への転換、周産期および乳幼児期の母子保健対策、学童期の学校保健対策の推進とともに、40歳未満の若い世代、特定健診対象の40-64歳の中老年期の健康の維持増進が必要である。医療給付実態調査の沖縄県分調査票については、継続して収集・集計分析し、沖縄県の医療費の動向について把握するための医療費データベースを構築することが今後の課題である。

V 参考文献

- 1) 厚生労働省保健局(2010)平成20年度医療給付実態調査報告, pp.441, <<http://www.mhlw.go.jp/bunya/iryuohoken/database/zenpan/iryoukyufu/h20.html>>. 2011年3月アクセス。
- 2) 沖縄県福祉保健部国民保険課・沖縄県環境生活部衛生環境研究所(2011)沖縄県の医療費—平成20年度医療給付実態調査より—, pp.365。